

# 2017年3月期決算概要



日進工具株式会社

2017年5月12日  
(証券コード6157)

# 目次

1. 2017年3月期の業績	P. 3	・・・	決算の概要
	P. 4	・・・	営業利益の増加要因
	P. 5	・・・	損益計算書サマリー
	P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 7	・・・	業績推移
2. 2018年3月期の業績見通し	P. 14	・・・	業績見通し
	P. 15	・・・	2018年3月期の重点戦略
	P. 16	・・・	配当予想
	P. 17	・・・	設備投資と減価償却費のトレンド
< 参考資料 >	P. 19	・・・	企業概要
	P. 21	・・・	日進工具の特長・強み
	P. 23	・・・	超硬小径エンドミル市場の概況
	P. 24	・・・	当社製品の用途と主な需要業種
	P. 25	・・・	生産・開発拠点
	P. 26	・・・	グループ会社の概要
	P. 27	・・・	株式の状況
	P. 28	・・・	主要データ推移・投資指標
	P. 30	・・・	株価推移とバリュエーション
P. 31	・・・	I R サイトのご案内	

# 2017年3月期の業績



# 決算の概要

環境の改善もあり、増収・増益基調を維持

(百万円)

	通期予想	2017年3月期 通期実績	予想対比
売上高	8,480 ( +1.2% )	8,825 ( +5.3% )	345 ( +4.1% )
営業利益	1,940 ( +1.3% )	2,013 ( +5.2% )	73 ( +3.8% )
経常利益	1,980 ( +1.3% )	2,026 ( +3.7% )	46 ( +2.3% )
当期純利益	1,350 ( +0.5% )	1,420 ( +5.8% )	70 ( +5.2% )

( )内は前期比増減率

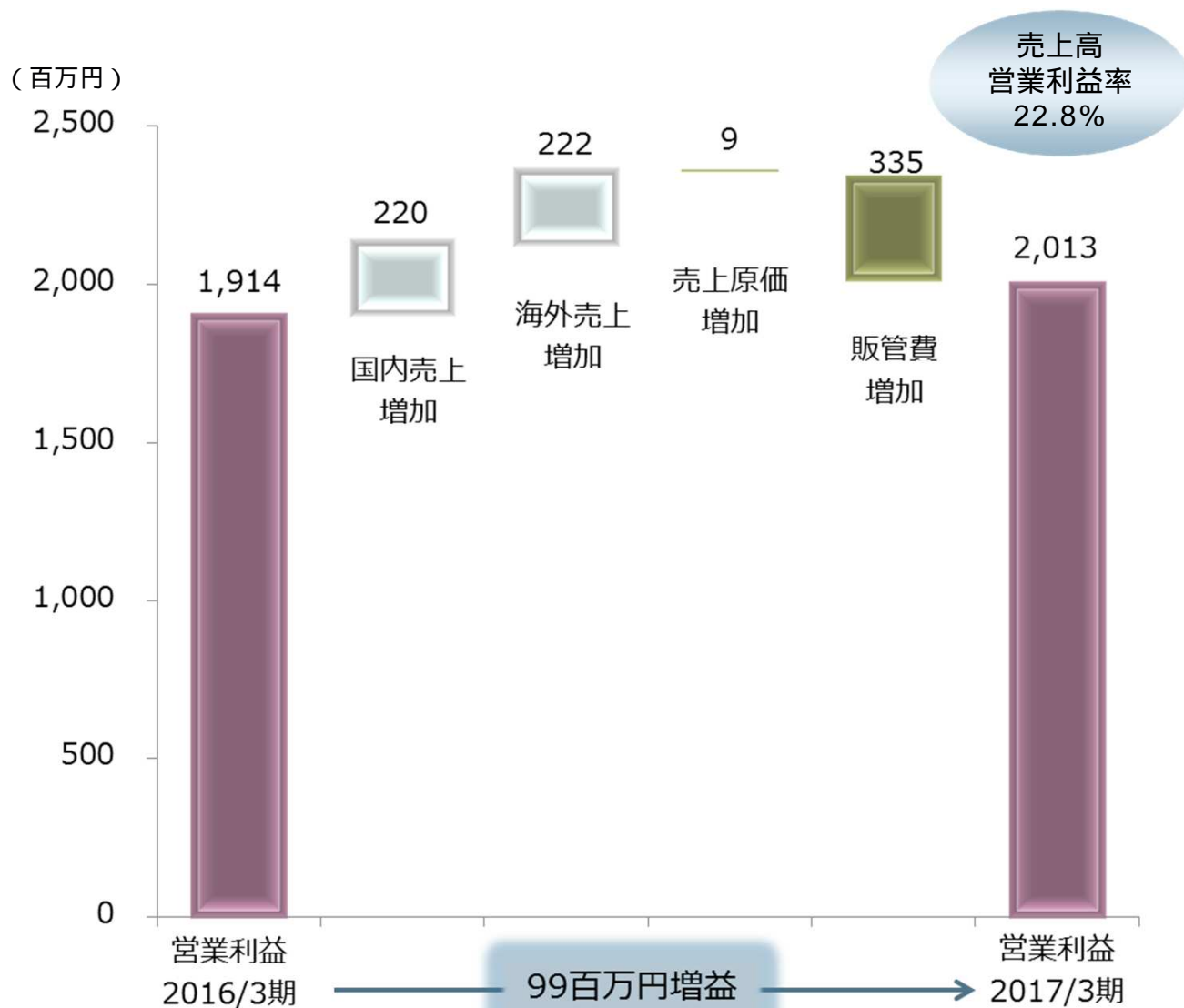
堅調な雇用情勢や米欧経済の回復傾向に加え、昨年11月の米大統領選挙後に円安ドル高が進んだこと等から景気は緩やかな回復基調が続き、工具需要も順調に推移。

主な需要先では、新車投入効果や米欧への輸出増から自動車関係が持ち直しとなったほか、新型スマートフォン向けや車載向け需要で電子部品関係も堅調。

このような環境のなか、売上高は前期比5.3%増の8,825百万円、営業利益は同5.2%増の2,013百万円と初めて20億円を突破。

従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことにより、受取配当金が連結消去され営業外収益が減少したため、経常利益は同3.7%増に止まった。

# 営業利益の増加要因



国内売上高は前期比220百万円、3.4%のアップ、また海外売上高は同222百万円、11.5%のアップとなった。なお売上高全体では443百万円、同5.3%の増加であった。

443百万円の売上高増加に対して、売上原価は9百万円の増加。前期まで非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことによる原価の削減効果や期首に比べ製品在庫が96百万円増加した影響等による。

販管費は2年に1度開催されるJIMTOF (日本最大の工作機械関連見本市) への出展費用や総合カタログに係る費用、また東証二部への市場変更関連の費用等から335百万円、13.5%増加。

営業利益は2,013百万円と99百万円、5.2%増加し、売上高営業利益率は前期と同じ22.8%となった。

# 損益計算書サマリー

(百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	前期比	コメント
売上高	8,382	8,825	+5.3%	小径エンドミルはスマートフォンや車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ、概ね順調に推移。
売上総利益 (率)	4,389 (52.4%)	4,823 (54.7%)	+9.9%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことによる原価の削減効果や製品在庫の増加等により、売上総利益率は54.7%に上昇。
販管費 (率)	2,475 (29.5%)	2,810 (31.8%)	+13.5%	ブランディングの強化もあり、展示会 (JIMTOF 2016) や総合カタログに係る費用が増加、東証二部への市場変更に絡む支出もあり販売管理費は13.5%増加し、売上高販管費比率は31.8%に上昇。
営業利益 (率)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)	+5.2%	販売管理費が増加したものの、売上総利益の増加により営業利益は5.2%増加。売上高営業利益率は22.8%と前期と同水準。
経常利益 (率)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)	+3.7%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことにより受取配当金が減少したほか、香港ドル建てで販売している海外子会社にて9百万円の為替差損が発生したこと等から、前期比3.7%増と営業利益の伸びを下回った。
当期純利益 (率)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)	+5.8%	
設備投資額	1,295	774	-40.2%	前期は新工場棟の竣工に加え機械設備の導入を通常よりも増加させたが、当期は通常に戻している。
減価償却費	505	632	+25.3%	前期に行った新工場棟建設や設備の積極導入により、減価償却資産が増加。
従業員数	280人	322人	+15.0%	従来非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したことに加え、営業や工場で人員強化のため中途採用を実施。

( )は売上高に対する比率

# 貸借対照表サマリー

(百万円)

	2016年 3月期	構成比	2017年 3月期	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	6,978	61.4%	7,971	63.7%	+14.2%
現金及び預金	3,898	34.3%	4,659	37.2%	+19.5%
受取手形及び売掛金	1,332	11.7%	1,422	11.4%	+6.7%
棚卸資産	1,467	12.9%	1,592	12.7%	+8.5%
固定資産	4,393	38.6%	4,546	36.3%	+3.5%
有形固定資産	3,893	34.2%	4,047	32.3%	+4.0%
無形固定資産	147	1.3%	118	0.9%	-20.0%
投資その他の資産	353	3.1%	380	3.0%	+7.8%
資産合計	11,371	100.0%	12,517	100.0%	+10.1%
(負債の部)					
流動負債	1,355	11.9%	1,354	10.8%	-0.1%
買掛金	272	2.4%	230	1.8%	-15.5%
固定負債	446	3.9%	495	4.0%	+11.1%
負債合計	1,802	15.8%	1,850	14.8%	+2.7%
(純資産の部)					
純資産合計	9,569	84.2%	10,666	85.2%	+11.5%
負債・純資産合計	11,371	100.0%	12,517	100.0%	+10.1%

流動資産は、現預金や棚卸資産の増加により前期比14.2%増加。

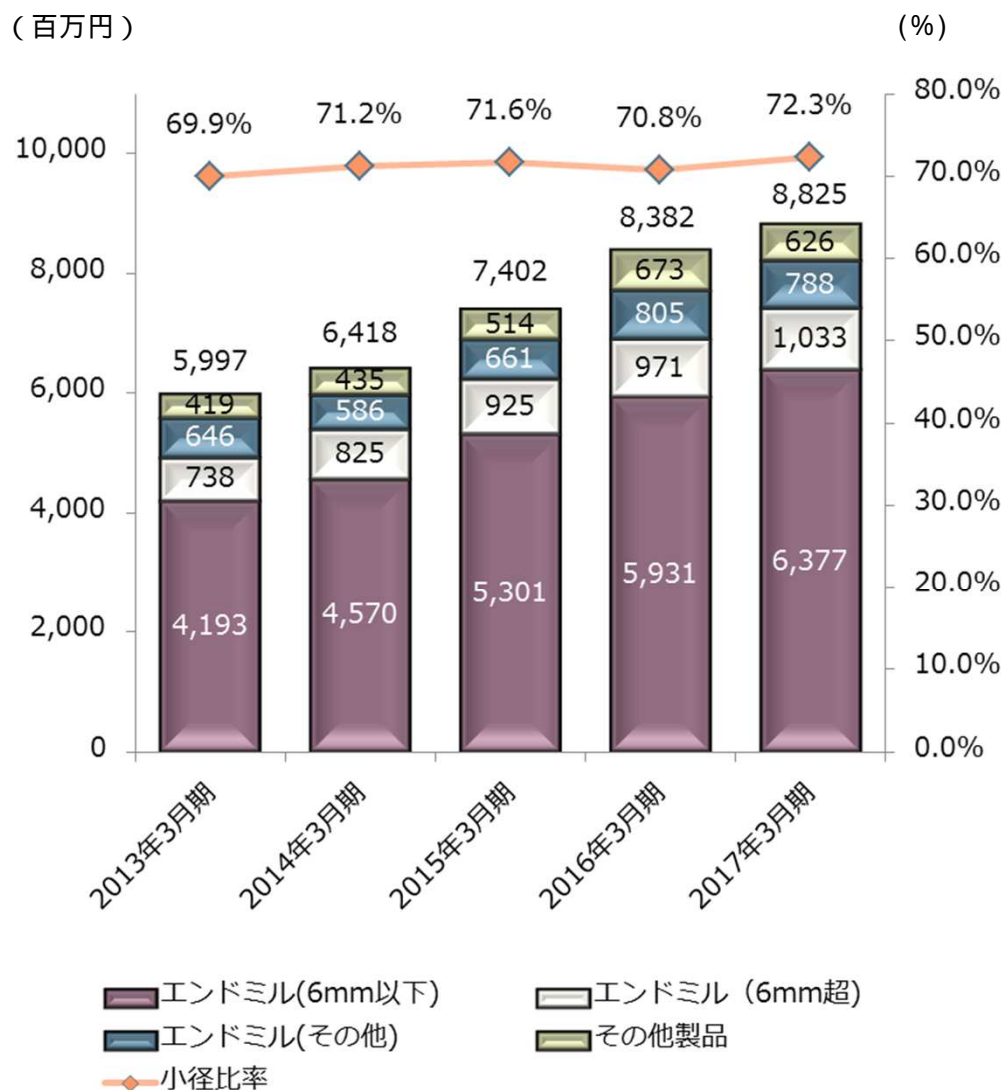
固定資産は、機械設備の増加を主因に同3.5%増加。

負債は、買掛金や未払法人税等が減少した一方、業績向上に伴い賞与引当金が増加したこと（流動負債）、子会社への転籍に伴い退職引当金が増加したこと（固定負債）等により、同2.7%増加。

純資産は、利益剰余金の増加等から同11.5%増加、自己資本比率は85.2%となり1.0ポイントアップ。

# 業績推移（売上高の推移 製品別）

## 製品別売上高と小径比率の推移



自動車関連が、新車投入効果による国内販売台数の増加や海外向けの好調継続から活況となった他、スマートフォンの高機能化や部品点数の増加に加え、車載向けが拡大している電子部品関連も持ち直し、小径エンドミル需要は概ね順調に推移した。

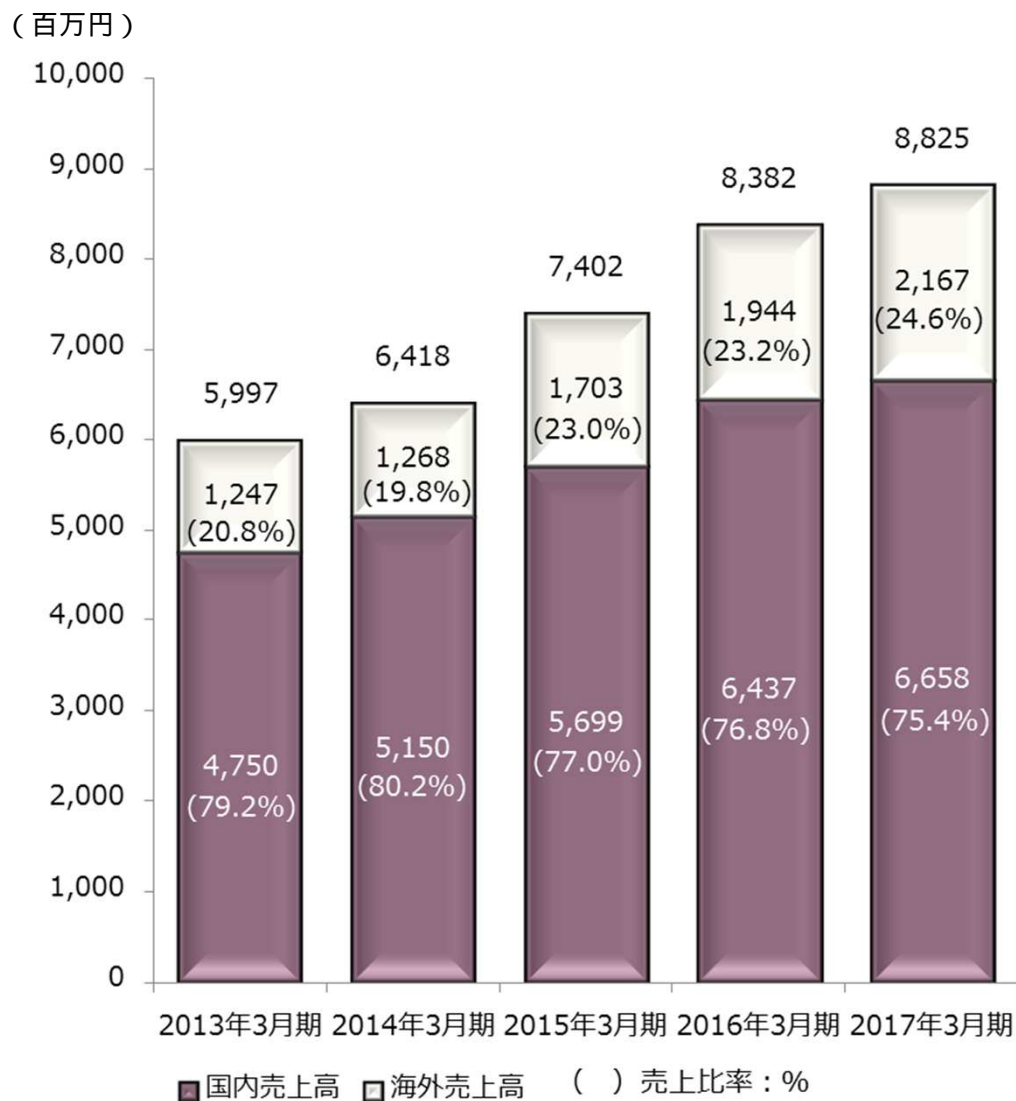
連結売上高は、前期比5.3%増加の8,825百万円と5期連続で過去最高を更新。

製品別では、エンドミル(6mm以下)が前年同期比+7.5%、エンドミル(6mm超)が同+6.4%と伸びた一方、エンドミル(その他)は同 2.1%、その他は同 7.1%と振るわなかった。これにより小径比率は72.3%と前期の70.8%から1.5ポイント上昇した。



# 業績推移（売上高の推移 国内・海外）

## 国内・海外売上高の推移



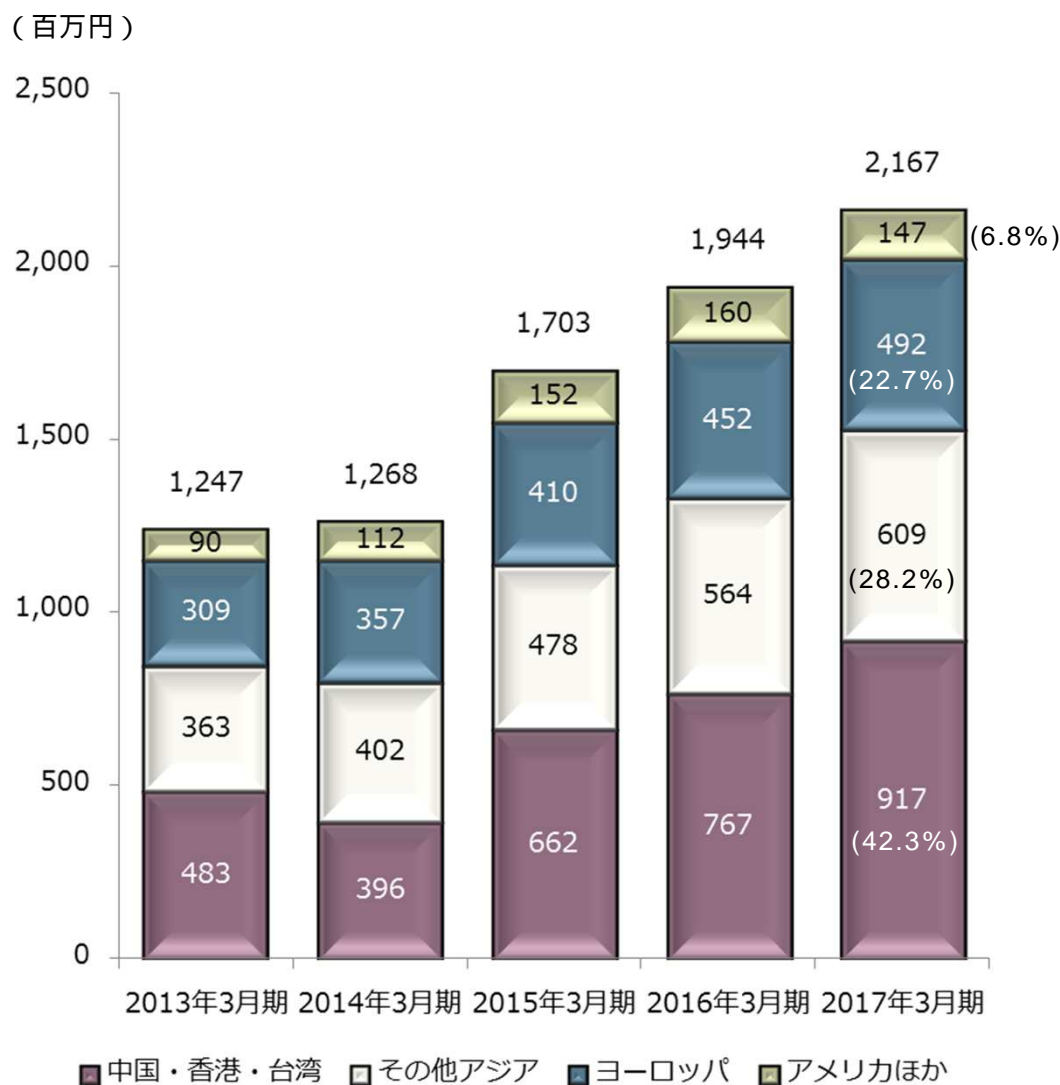
国内・海外ともに前期の水準を上回ったが、前期に比べた増加額は、国内の220百万円に対して海外は222百万円、伸び率では国内が3.4%、海外は11.5%と2ケタ増となった。

特に中国・香港・台湾向けが、スマートフォン関連の需要等から前期比19.5%増と牽引した。

国内向けは、前半は円高傾向や熊本地震によるサプライチェーンの寸断等からもたつく場面もあったが、徐々に回復傾向となり、米大統領選後に円安傾向となったこともあって、年明けから年度末にかけては堅調に推移した。

# 業績推移（売上高の推移 海外地域別）

## 海外地域別売上高の推移



海外地域別の売上高は、中国・香港・台湾が前期比19.5%増の917百万円。

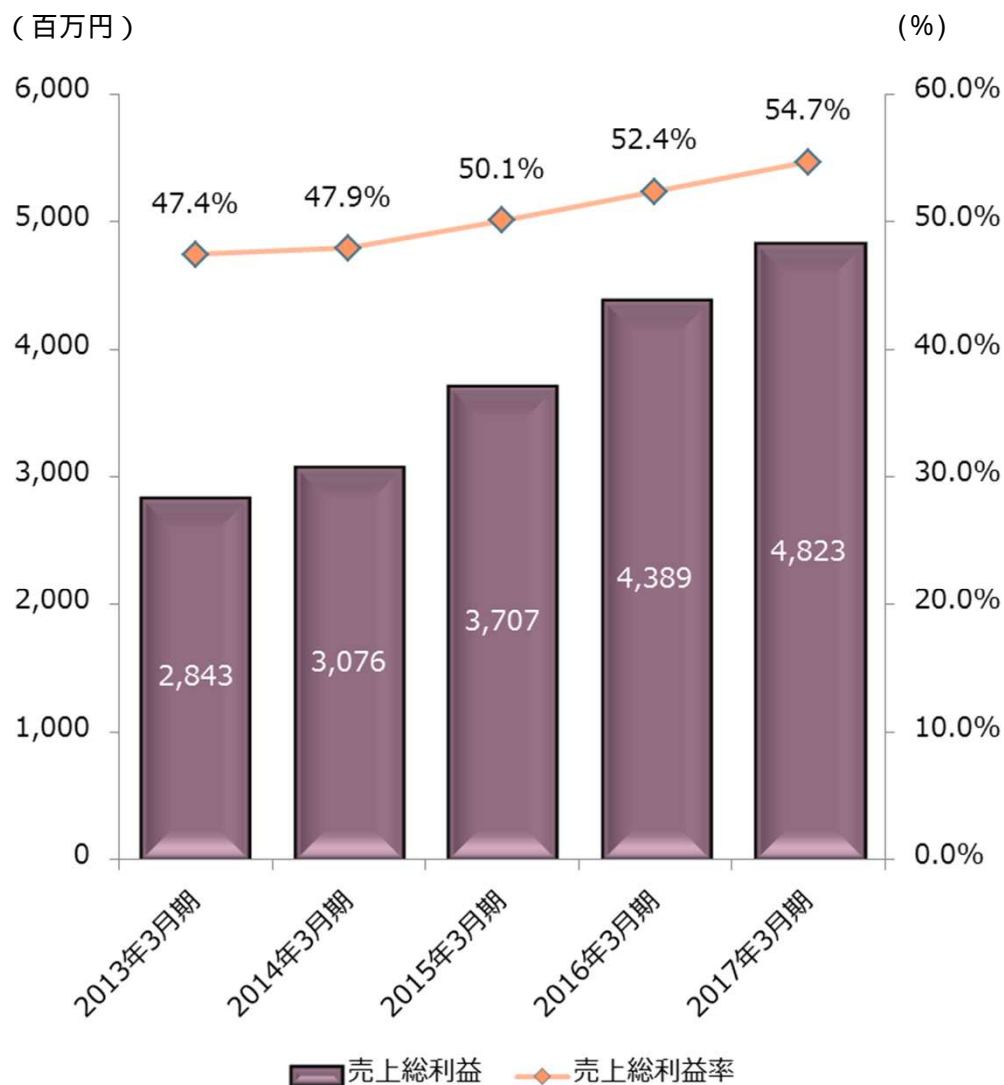
海外売上高に占める比率は、従前はその他アジア、ヨーロッパと1/3ずつ分け合っていたが、最近は他地域に比べ大きく伸びており、当期は全体の42.3%を占めた。

その他アジアは後半にかけて、タイの自動車関連向けに牽引され増加傾向、前期比8.0%増となった。またヨーロッパも金額では他の2地域には及ばないが、前期比8.9%増と伸ばした。

アメリカほかは絶対量も少ないが、当期は前期比 7.9%と前期比でも減少となってしまった。

# 業績推移（売上総利益の推移）

## 売上総利益と売上総利益率の推移



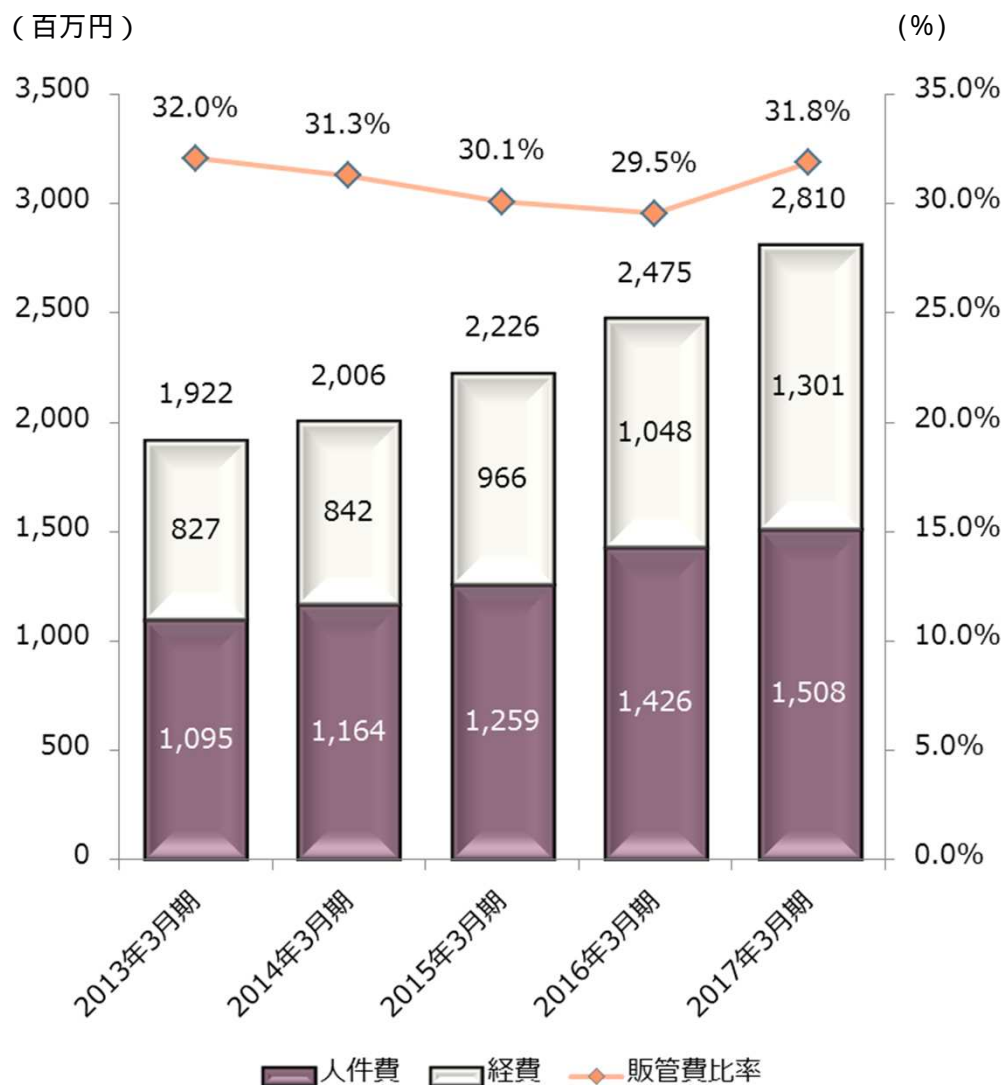
連結子会社による非連結子会社（製造会社）の吸収合併に加え、新工場棟や機械増設による減価償却費の上昇等から労務費や製造経費は増加したが、同吸収合併により外注加工費が減少したため、当期製品製造原価は3.8%の増加に止まった。

また製品在庫が期初に比べ96百万円増加したことも加わり、売上原価は前期比0.2%増と売上高の増加5.3%を大きく下回った。

これにより売上総利益は前期比9.9%増の4,823百万円、売上総利益率は54.7%で前期に比べ2.3ポイント上昇。

# 業績推移（販管費の推移）

## 販管費と販管費比率の推移

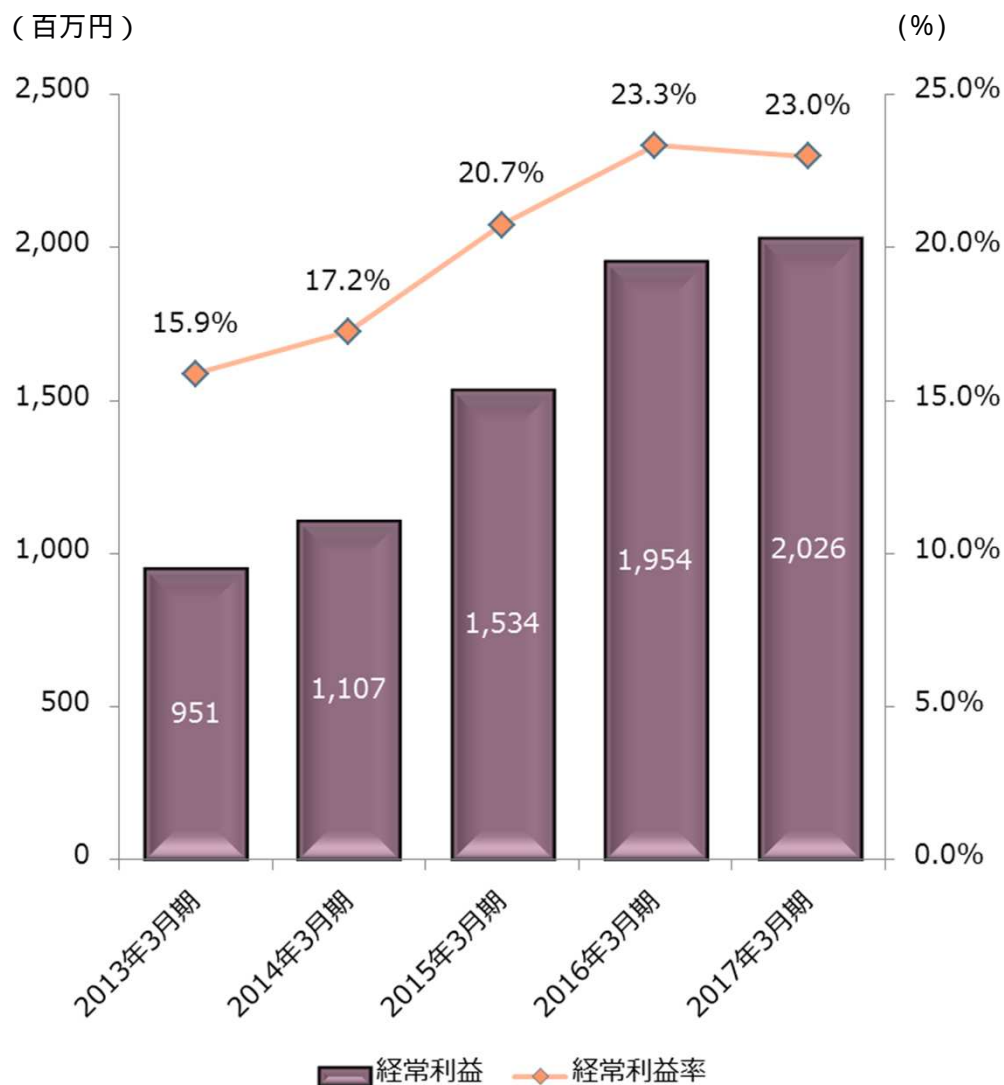


販売管理費では、認知度向上のためのブランディング施策や東証二部への市場変更関連の費用が加わったほか、日本最大の工作機械関連見本市であるJIMTOFの出展及び総合カタログの改訂にも力を入れたこと等から、一般経費が前期比24.1%増加し、同5.8%増となった。人件費も含めた全体で2,810百万円と同13.5%増加した。

このため、低下傾向となっていた売上高販管費比率は31.8%と前期に比べ2.3ポイントの上昇となった。

# 業績推移（経常利益の推移）

## 経常利益と売上高経常利益率の推移



売上総利益が前期比9.9%増加したものの、販売管理費が同13.5%と大きく増えたため、営業利益は同5.2%増加の2,013百万円に止まった。

また、前期まで非連結であった子会社を連結子会社が吸収合併したため、従来あった配当金が連結消去となり、営業外収益が同31.6%減少したことに加え、香港現地法人における9百万円の為替差損計上により、営業外費用が同82.2%増加、これにより経常利益は同3.7%増の2,026百万円となった。

売上高経常利益率は23.0%と目標に掲げる20%は上回ったものの、前期に比べ0.3ポイント低下した。

# 2018年3月期の業績見通し



## 業績見通し

(百万円)

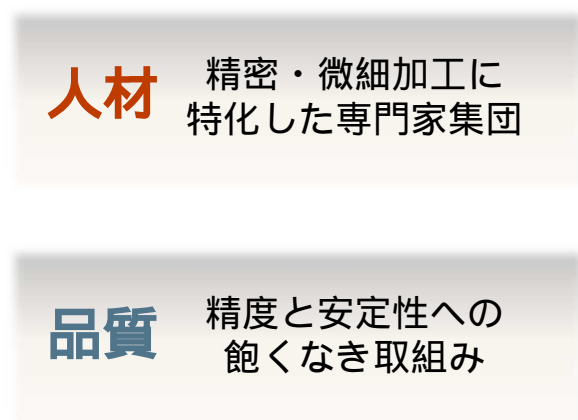
	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,825	9,130	+3.4%	燃料電池車の量産化や自動運転等の進展による車関係の需要及び主力スマートフォンの2017年モデル向け需要により底堅く推移すると予想。
営業利益	2,013	2,090	+3.8%	売上高に連動して増加を想定。
経常利益	2,026	2,100	+3.6%	同上
当期純利益	1,420	1,450	+2.1%	同上
設備投資額	774	713	-7.9%	主に生産機械設備の導入によるもの。今期は特別な設備投資の予定はない。
減価償却費	632	619	-2.1%	ほぼ例年通りの設備投資の水準となるため、減価償却費は横ばいの水準を想定。
EPS	113.63円	115.97円	+2.1%	
1株当り配当金	40円	40円	0.0%	株主還元強化の一環として、前期の記念配当を含めた水準を継続。

2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

# 2018年3月期の重点戦略（前期より継続）



**連結売上高91億円の達成  
&  
経常利益率20%、ROE10%の確保**



**生産**

自動化の推進  
製造技術向上による  
更なる高精度化の実現

**販売**

新規ユーザーの開拓  
既存ユーザーの深耕  
海外市場の拡大

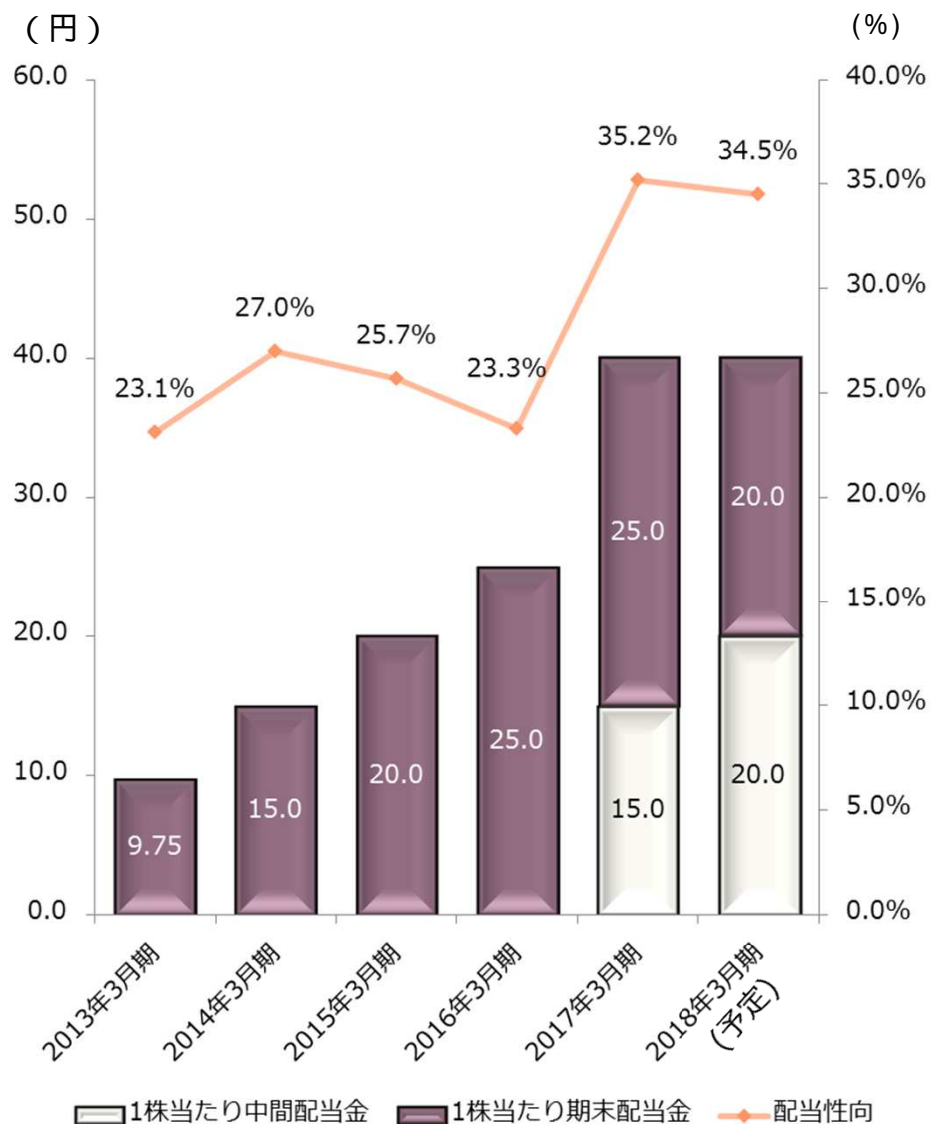
**開発**

画期的な高付加価値製品の  
開発

**持続的成長の実現**



# 配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

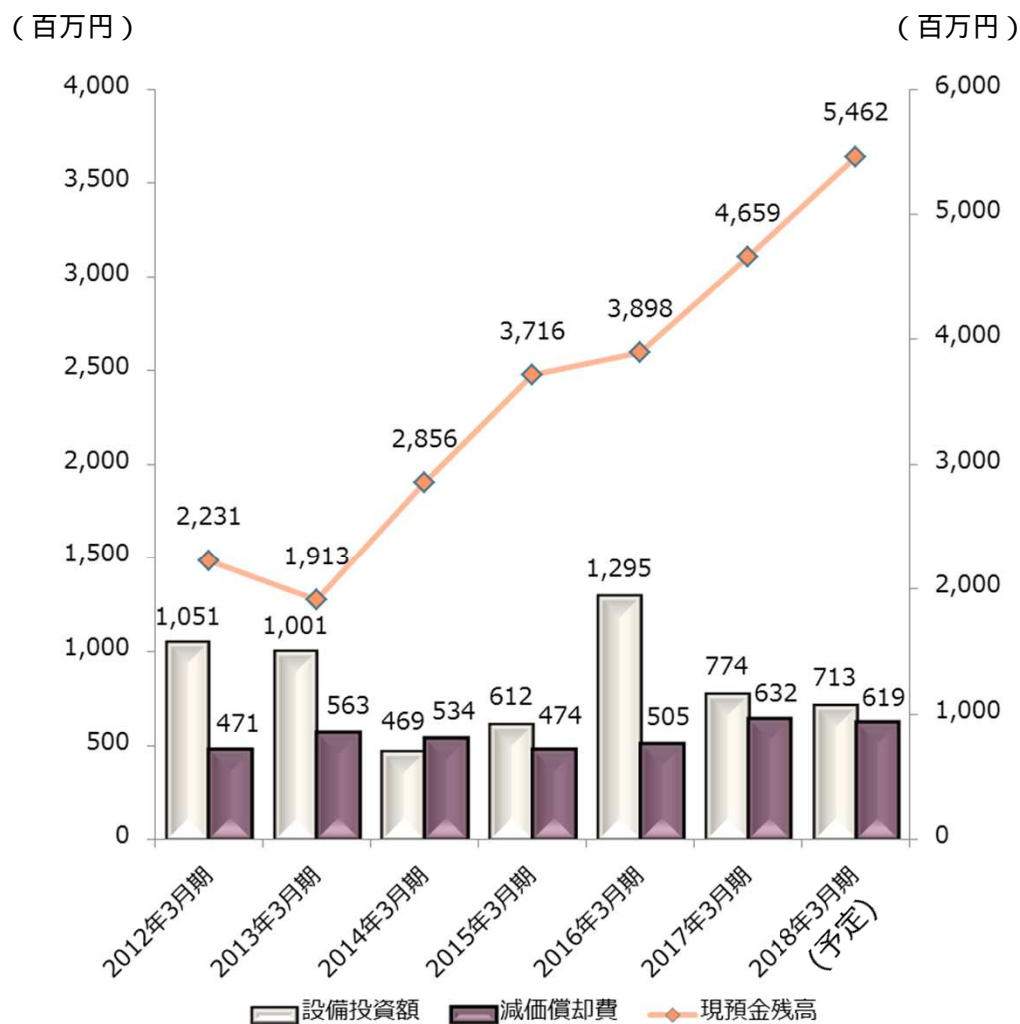
## 業績に応じた利益還元

- 2017年3月期の1株当たり年間配当金は40円  
中間配当は15円  
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）  
2016年12月支払の中間配当金についても2017年1月1日付の株式分割の影響を考慮しています。  
配当性向は35.2%
- 2017年3月31日より株主優待を実施  
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1单元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈
- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は40円を予定（中間配当20円、期末配当20円）  
業績予想に対する配当性向は34.5%

自社株買いではなく  
配当にウェイトを置く方針

# 設備投資と減価償却費のトレンド

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



(左軸：設備投資額・減価償却費、右軸：現預金残高)

## 増減要因

2012年3月期

仙台倉庫取得により設備投資額上昇

2013年3月期

牧野工業白河工場の建設により  
設備投資額が高水準

2016年3月期

工場増設と機械設備の前倒し導入により  
年度設備投資額は過去最高

2017年3月期

設備投資は通常の水準となったが  
前期の工場増設等により減価償却費が増加

2018年3月期計画

設備投資は機械設備の増設等通常の  
範囲内を想定

## < 参考資料 >



## 企業概要

- 商号 : 日進工具株式会社
- 事業内容 : 工作機械に取付けて、金属等の切削加工を行う  
超硬エンドミルの専門メーカー
- 特長 : 精密・微細加工に使用される小径工具に特化
- 創業 : 1954年12月
- 従業員 : 単体200名（グループ合計322名）
- 連結業績 : 売上高 88.2億円 経常利益 20.2億円  
(2017年3月期) (売上高経常利益率 23.0%)

# 企業概要

## 代表者プロフィール



代表取締役社長 後藤 弘治 (55歳)

1986年 入社  
 1995年 専務取締役就任  
 2011年 代表取締役副社長就任  
 2013年 代表取締役社長就任

## ブランドステートメント

「つくる」の先をつくる

## 社是

**明 楽 創**

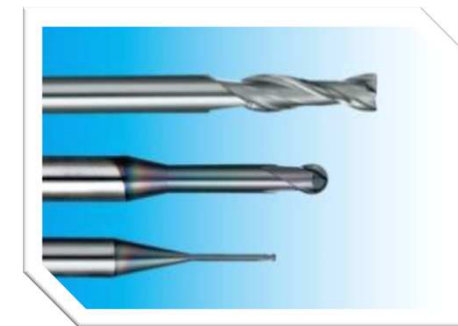
明るく、楽しく、創造をしよう。

## 株式関係

上場市場	:	東京証券取引所市場第二部
株価	:	1,682円 (2017年3月31日)
発行済株式数	:	12,504,000株

## 日進工具の特長

- ✓ 精密加工に欠かせない  
小径エンドミルのトップメーカー



- ✓ 独自のニッチ・トップ戦略による堅実な経営



着実な成長を継続	無理に売上を追わない（利益重視）
高い収益性を確保	高付加価値製品と生産の効率化
無借金経営の堅持	強固な財務基盤

# 日進工具 3つの強み

【超硬小径エンドミル ニッチ・トップ戦略】

Made in Japanで勝負



## 生産力

高品質製品を安定的に供給

自社開発機による自動化の推進  
他社が追随できない生産性を誇る

## 開発力

超モノづくり部品大賞等を受賞



高付加価値・次世代製品への取り組み  
カギは製品の超微細化と長寿命化

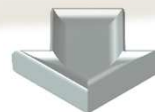
## 販売力



高付加価値に特化

小径エンドミルではトップクラスのシェア

精密・微細加工を主とした加工技術提案  
海外でも急速に認知度がアップ



## 財務体質

強固な財務基盤と高い収益力

【有利子負債 ゼロ】 【経常利益率 23.0%】 (2017/3期)

# 超硬小径エンドミル市場の概況

機械工具生産金額 (2016年)  
総額 4,461 億円

超硬工具 2,687億円(60.2%)

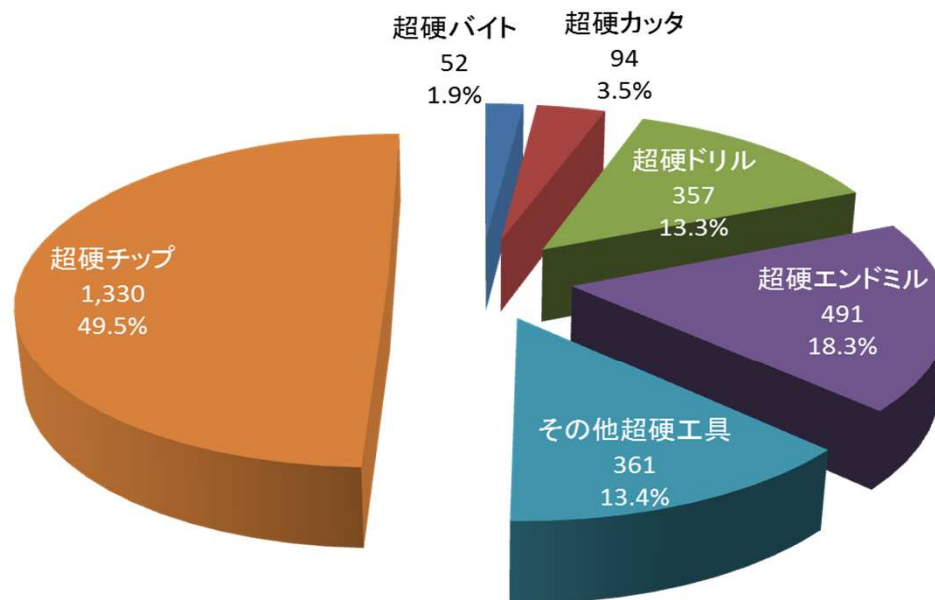
C(W)BN工具 242億円( 5.4%)

ダイヤモンド工具 667億円(15.0%)

特殊鋼切削工具 864億円(19.4%)

出所：経済産業省「生産動態統計 機械統計編」

**超硬工具 2,687 億円 (内訳)**



超硬小径エンドミル における圧倒的な強さを目指す

超硬エンドミルのうち刃径6mm以下のもの

小径市場は  
約180億円

出所：当社推計



# 当社製品の用途と主な需要業種

【小径エンドミルは先端的な製品の加工に不可欠】

当社製品  
(超硬小径エンドミル)



金型加工

部品加工



輸送機械

自動車、バイク

電気機器

家電、P C、A V 機器、LED照明、  
通信機器 (スマートフォン・タブレット端末)

その他

精密機器、光学レンズ  
医療機器、燃料電池、ほか

大手から中小まで5,000社を超えるユーザーに販売

# 生産・開発拠点（仙台北部中核工業団地）

加工センター



開発センター



工場内風景



仙台工場



新工場棟（E棟）



土地・建物を  
取得済  
(現在は賃貸中)



# グループ会社の概要

## 連結子会社

(2017年3月末現在)

### 株式会社ジーテック

所在地 : 東京都品川区

事業内容 : 当社製品の販売



### 株式会社牧野工業

所在地

本社 : 福島県白河市

東京事務所 : 東京都荒川区



事業内容 : 工具ケースを主力とした  
プラスチック成形品の製造・販売

### 株式会社日進エンジニアリング

所在地

本社 : 宮城県黒川郡  
大和町

新潟工場 : 新潟県魚沼市

事業内容 : コーティング加工、再研磨  
超硬エンドミルの受託加工  
(刃径6mm超の製品)



### NS TOOL HONG KONG LIMITED (日進工具香港有限公司)

所在地 : 中華人民共和国香港特別行政区

事業内容 : 当社製品の販売  
(香港・中国)

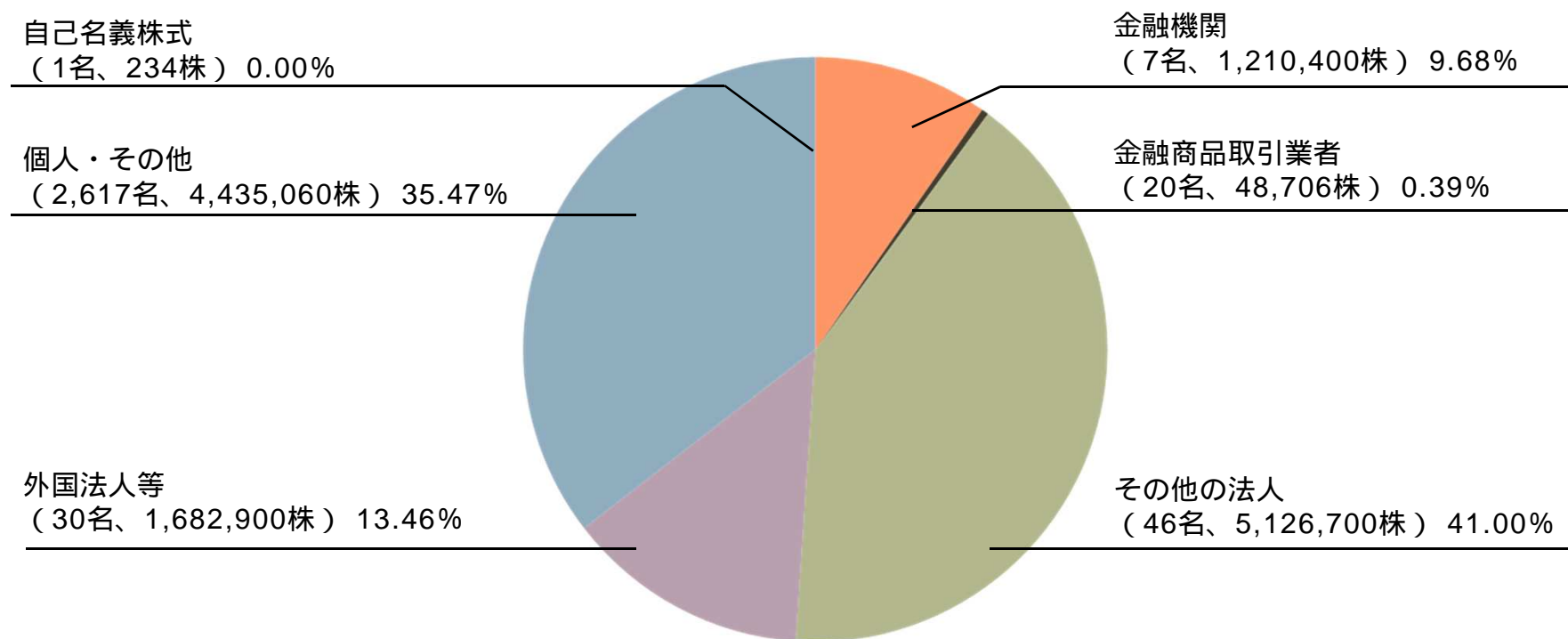


# 株式の状況

2017年3月31日現在

発行可能株式総数	:	19,200,000株
発行済株式総数	:	12,504,000株
株主数	:	2,721名

## 所有者別株式数分布状況



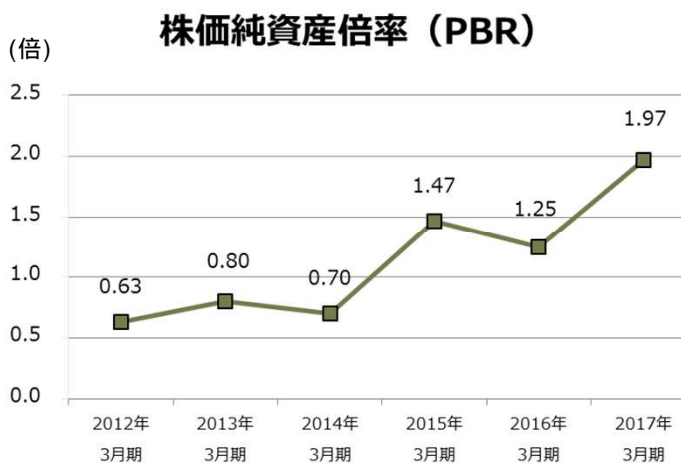
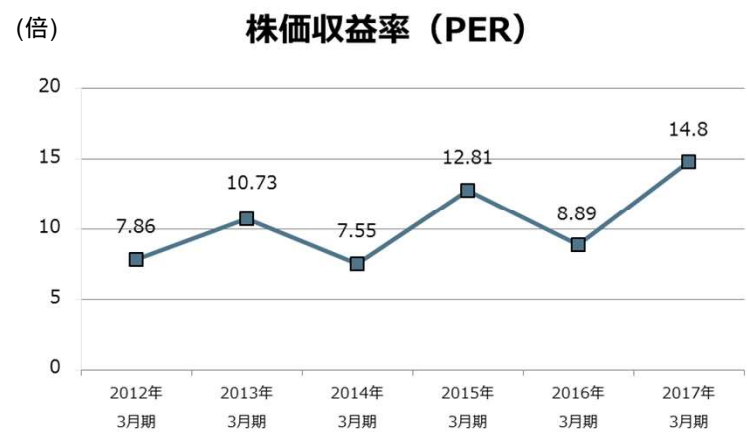
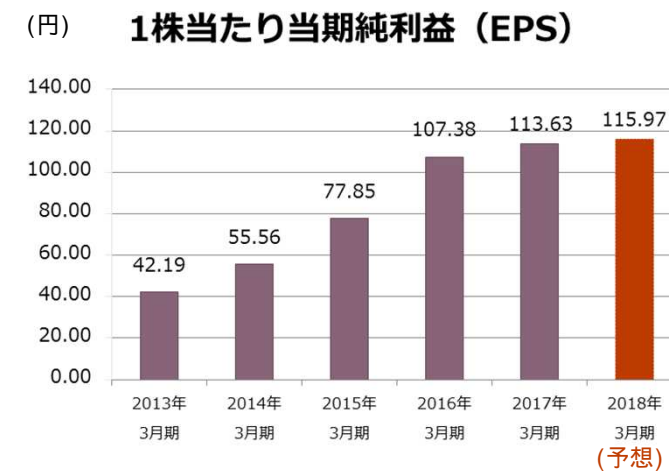
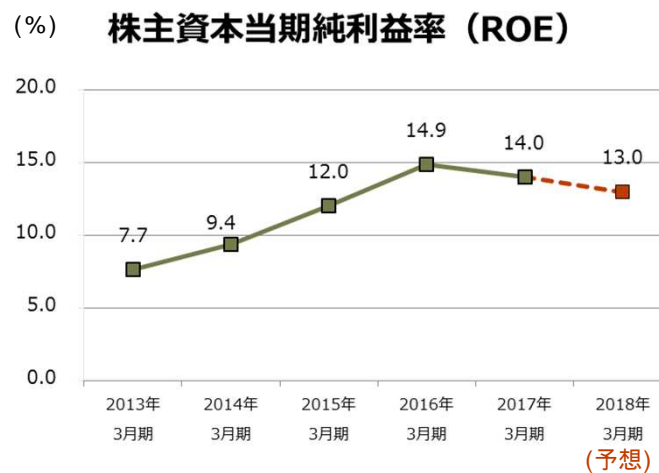
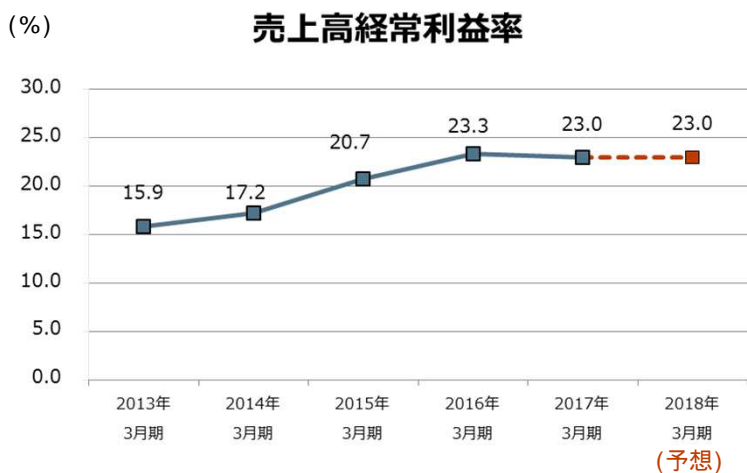
# 過去5年間の業績と主要データ推移

(百万円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
売上高	5,997	6,418	7,402	8,382	8,825
営業利益(率)	921 (15.4%)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)
経常利益(率)	951 (15.9%)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)
当期純利益(率)	527 (8.8%)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)
有利子負債額					
純資産額	7,106	7,680	8,480	9,569	10,666
総資産額	8,297	9,075	10,339	11,371	12,517
自己資本比率	85.6%	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%
設備投資額	1,001	469	612	1,295	774
減価償却費	563	534	474	505	632
1株当たり配当金	9.75円	15円	20円	25円	40円
従業員数	281人	284人	281人	280人	322人

2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

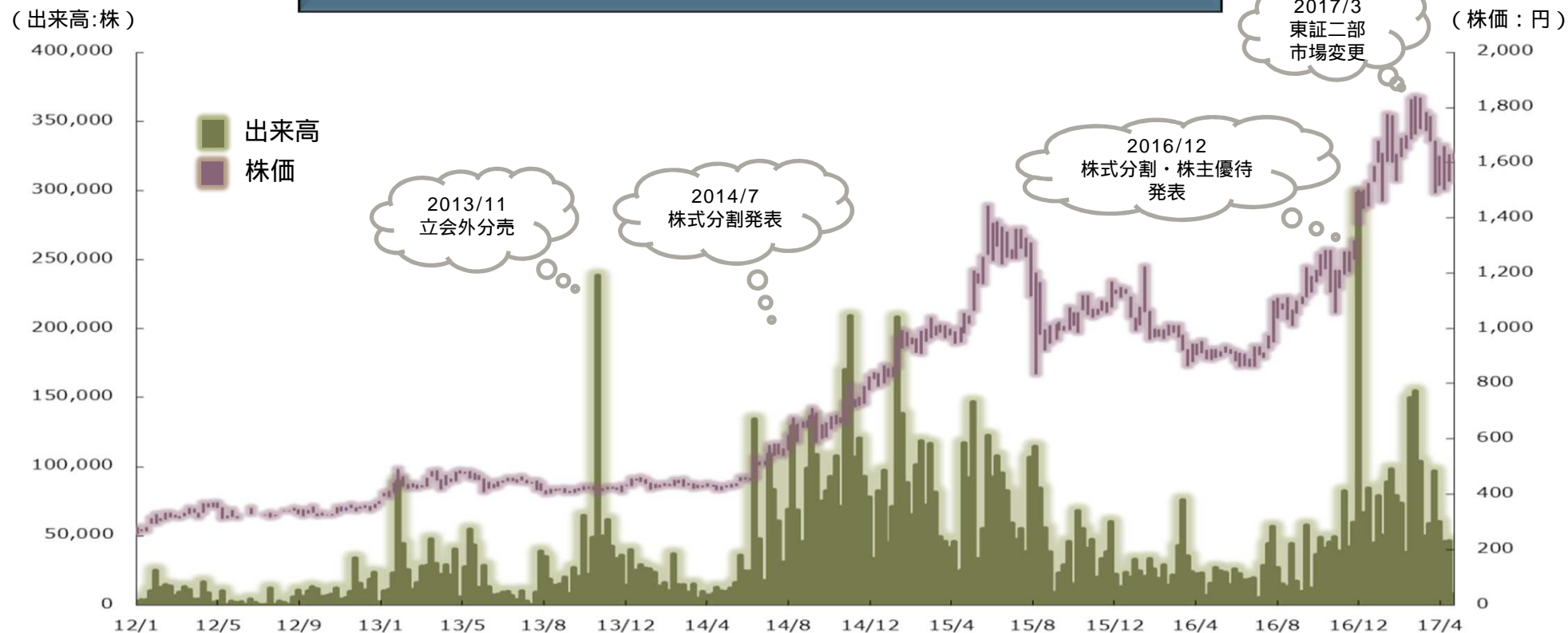
# 投資指標



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

# 株価推移とバリュエーション

## 週足ベース株価推移（2012年1月～2017年5月）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮していません

## バリュエーション（2017年5月9日現在）

売買単位：100株

時価総額：206億円

ROE (17/3期実績)：14.0%

単元株価格：16万4,900円

PER (18/3期予想)：14.22倍

PBR (17/3期実績)：1.93倍

# IR情報サイトのご案内

The screenshot shows the NS TOOL IR information website. The header includes the NS TOOL logo and navigation links: お知らせ, 採用情報, お問い合わせ, サイトマップ, and English. Below the header, there are tabs for 製品情報, 「つくる」の先をつくる, 事例・技術情報, 会社情報, and IR情報 (highlighted in orange). A search icon is also present. The main content area features a large image with the text 'Investor Relations' and 'IR情報'. Below this, there are sections for 'IRトピックス' and 'IRニュース'. The 'IRトピックス' section lists three items: 'SRアナリストレポート (2017年3月期第2四半期) [PDF] (629KB)', 'ベル企業レポート (2017年3月期第2四半期) [PDF] (1,077KB)', and '2017年3月期 第2四半期決算概要 [PDF] (1,232KB)'. The 'IRニュース' section is currently empty. A sidebar on the right contains a menu titled 'IR情報' with items: 'IR情報トップ', 'トップメッセージ', '個人投資家の皆様へ', 'IRトピックス・IRニュース', '+ 経営方針・体制', '+ 事業戦略', '+ 業績・財務情報', '+ IRライブラリー', '+ IRイベント', '+ 株式情報', 'よくあるご質問', and 'IRサイトの使い方'. Three callout boxes with arrows point to specific features: the top box points to the 'IRトピックス' section, the middle box points to the menu items, and the bottom box points to the 'IRニュース' section.

## IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

## メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます  
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

## IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください



## お問い合わせ

# 日進工具株式会社

執行役員管理部長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL : 03-3763-5672  
FAX : 03-3764-8225  
E-mail : [ir@ns-tool.com](mailto:ir@ns-tool.com)

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、  
確約や保証を与えるものではありません。  
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。